

## クレヨンハウス

写真は落合恵子さん主宰クレヨンハウスのブックレットだ。2012年3月発行。「知らなかった、知らされなかった、知ろうとしなかった」とは言えない、と。

ブックレット007は東京新聞「こちら特報部」デスク・田原牧さんによる、新聞記者が本音で答える「原発事故とメディアへの疑問」である。

愛読している「特報部」とは、どんな職場？から始まり、震災・原発事故から見えてくる日本社会など、厳しく鋭い指摘が続く。紹介したいことは多いが、ここだけでも記しておく。

原発は人柱(被ばく労働者)と未来へのツケ(放射性廃棄物)が不可欠なシステムです。少数であれ、ひとのいのちと引き換えの「繁栄」など、臓器売買となんら変わらぬ下品でグロテスクなシステムだと思います。わたしたちは競争社会のなかで他人に対する酷薄さにあまりに慣れすぎてしまっている。グロテスクさを看過してきたのはわたしたちでもあるのです。

非正規労働を抜きに経済成長は保てないという神話は経済界の常套句です。原発抜きに日本経済は成り立たないという台詞とそれはリアルに重なります。いわば、社会全体が原発化しているのです。

さらに、いわゆる都市と地方の差別構造も見逃せません。地方の過疎を利用して、都市は原発の危険を地方に押しつけてきました。原発立地の自治体の交付金漬け状態はそれを示しています。交付金という毒まんじゅうは与えたほうが責められて当然ですが、食べた側の責任もあります。さらにその地方の間でも交付金を受けた自治体とそうでない自治体間の感情的なもつれが存在します。都市と地方の格差をなくすための社会のつくり替えもわたしたちの射程に入れなくてはなりません。

同じ地方のなかでも、社会的弱者に事故のしわ寄せが集中するという問題もあります。それが今回の事故で顕在化しました。皆さんもご存じだと思いますが、今回の事故で原発直下にある大熊町の精神科病院の患者さんたちが、避難の過程で取り残されて死んでしまったという事件がありました。また、避難しようとしていた別の精神障がい者のひとたちが、避難所に入れなかったという問題も起きました。…ひとたびこうした大災害が起きれば、その犠牲は彼ら・彼女らのような社会的弱者に集中するのです。



(2016年10月27日)